

博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡／湯之奥・中山金山 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館報



**この春も、ゴールデンウィークも、夏休みも！
新年度も多くの皆様のご来館をお待ちしております。**

今から168年前の1848年1月24日、アメリカ・カリフォルニア州の川で、金が発見され一攫千金を夢見て多くの人々が殺到、田舎だったカリフォルニアは大発展をとげたという史実から、この日が「ゴールドラッシュの日」となったそうです。『黄金の国ジパング』とまでいわれた日本にはまだ金が眠っている…！自分たちの手で純国産の金を取り出そう、ということで1月24日放送の『ザ！鉄腕！DASH！！』の2時間スペシャルに当館登場！

TOKIOメンバーの城島リーダーと松岡さんのお二人がやっていた作業の元ネタはまさに当館で紹介している「戦国時代の鉱山作業」。今年も探検隊やりますよ！「こども金山探検隊」。メンバーお二人が使っていた石臼も15年間、この事業で大活躍している現役臼。テレビを見て興味を持った方もおられることと思いますが、今年も多くの方のお申込みをお待ちしております。

歴史を知る切り口 (歴史科学)

第4回「金山遺跡・砂金史研究フォーラム」に寄せて

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長 谷口一夫

平成28年2月13日、金山博物館と博物館応援団Au会共催の第4回「金山遺跡・砂金史研究フォーラム」が開催されました。テーマは多岐にわたり、発表者が各自興味のある金山や砂金産金地について、また久間英樹教授の3次元レーザーキャナーを使った坑道跡や鉱山臼の定量解析についてなど、7人の独自視点の発表に来場者の反響も極めて大きなものでした。加えて、今回から博物館エントランスにてポスターセッション・コーナーも設けました。

「登壇しての発表は気が引けるがポスター作成なら自分もやってみよう」という人が増え、より発表の場が広がっていくこと、そこで参加者の皆様と意見を交わすことが出来れば、より多くの皆様の参加が得られるのではという意図からです。したがって「金山へ登ったらこんな所がありました。」という写真と簡単な説明だけでも大歓迎というわけです。そんな初のポスターセッションは3点、博物館スタッフが発表しました。

まず1点目は「チーム博物館」。博物館深沢暢之リーダー・小松美鈴学芸員・熊谷拓哉主事の3名による「常葉金山跡」への初登頂報告と常葉金山登攀の記録写真が出展されました。金山博物館南方に高く聳える五老峰(標高1618.6m)山中に位置する常葉金山への案内は、地元出身で北海道に住む渡邊織枝さん。冬季には帰郷し近隣にある山々を登攀している渡辺さんが、常葉金山を目指して何度も足を運び、ようやく常葉金山跡らしき場所にたどり着いたと、博物館に報告にきてくれたことに端を発し、館からの現地案内依頼を快諾してくれたことから始まりました。

急勾配の山で沢には20センチ以上もの雪が積もり、詳細な現地踏査はまなまりませんでした。金山への道筋が出来たことは大成功。雪解けからの現地調査への意欲と期待が膨らみました。

2点目は、過日放送されたテレビ番組「ザ! 鉄腕! DASH!!」の中で行った「灰吹き実験の経緯と結果について」発表したもので、発表者は、実験を重ね番組で指導者を担当した小松学芸員。

3点目は筆者が、こうした日々の地道な現地踏

査が歴史研究にどう繋がっていくのか、歴史を知る(解明する)切り口(学術的方法論)を出展致しました。このポスターセッションは、フォーラム終了後も、博物館企画展として3月末まで引き続き展示、興味のある方にはポスター前で解説と質問に答えています。来館者の目に留まり熱心に学んで頂き感謝しています。以下はそのポスター内容である「歴史研究の切り口」について紹介致します。

歴史を知る切り口 (歴史科学)

歴史を知る(過去の事を知る)切り口には3つの人文科学と1つの自然科学があります。「科学」などと言いますと難しく考えてしまいがちですが、以下①~④で示した切り口(必ずしも全てが揃う訳ではありませんが)謎解きを楽しく取り組むことです。

① **文字史料(文献) = 発言史料(特に検証が前提ですが) 一級史料です。**

古文書・日記・書誌・絵図・写真・金石文・諸記録・板碑・墨書土器など様々なケースがあり、歴史を言葉で伝えてくれます。古文書などは読解力が備わると楽しい学問です。注意が必要なのは家系図とも言われます。これら文字史料、考古資料や民俗資料が符合すれば、より真実の歴史に近づきます。

② **考古資料 = 存在そのものが歴史事実ですが無言です = 無言資料から歴史を発言させる学問が考古学です。**

鉱山道具を眺めていても金山跡(金山遺跡)へ登っても何も歴史を語ってはくれません。金山跡や残された道具は全て事実ですが「無言」です。考古学の視点で解析し金山操業時代や金山衆の在り様や、その人たちの技術、その技術の伝承などを、金山が成立していた背景などと共に様々な資料を集積し分析することで、やがて「無言資料」から「発言資料」へと姿を変えていきます。その歴史科学が「考古学」です。発言資料に変える過程で①文献史料や③民俗資料④科学分析試料との関わりも重要になるわけです。

③ **民俗資料 = 現在でも生活の中で繋がっていま**

す = 歴史の肉付けになります。

伝承・年中行事・祭り・盆暮れ正月行事の形式や形態など①②資料の肉付けとなります。今でも民家に残る「ねござ」や「ゆりいた」などの民俗資料の存在は②の無言資料を発言資料に変える有力な手掛かりともなります。後述しますが、民俗学者・中沢新一氏が著した『大阪アースダイバー』の記述は、8世紀の奥州における砂金採掘開始時期と見事に符合します。

④ **科学分析試料 = 事実の裏付けになります。**

遺跡の包蔵地層や遺物の素材分析・胎土分析・年代測定など様々な形で歴史科学の切り口になっています。中山金山では精錬場跡発見の素焼きの土器片に金粒が付着していたことから「金熔融」が行われた事実が見えてきたわけです。ただし「灰吹き」の方法論については現在もお検証中です。

以上、歴史研究は4つの科学が連動し合って研究が進化してきています。ただ、それぞれの資史料が都合よくあるわけありませんから、広い視点で他の事例との学際的な比較研究が不可欠です。

日本列島における砂金開始時期については、8世紀中葉の文献「続日本記」(749年)に宮城県涌谷(国史跡・黄金山産金遺跡)の金が百済王敬福から聖武天皇へ献上されたことあり、「続日本記」(750年)には静岡県田子の浦の国守植原東人から孝謙天皇へ金献上の記録があります。さらに遡る「東大寺要録」(747年)には茨城県太子町の八溝山金山遺跡から遣唐使派遣の財政支援があったという具体的な記録が残る背景に産金活動の姿が見えてきます。この流れの中で涌谷の黄金山神社は地域の氏神さんから国営の式内社に、八溝山神社も式内社になるなど、当時は国を挙げての祝事だった事が分かります。

3世紀以降の日本列島では巨大古墳が築造され(本県では4世紀中ごろ小平沢古墳に始まり)、646年の薄暮令が出るまで築造が進みましたが、金銅の副葬品などもたくさん発見されましたが、日本列島ではまだ金の産出や金工品もその技術がなかった時代で、3~7世紀は何れも朝鮮半島

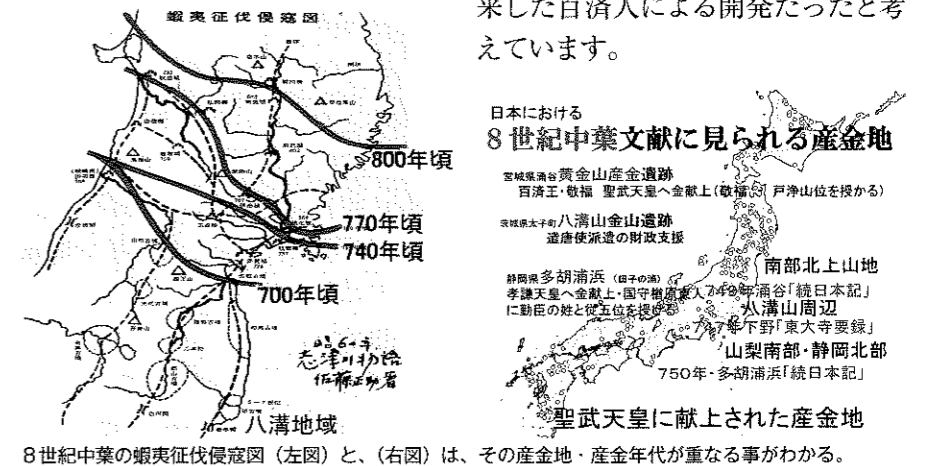
からの渡来品でした。

日本の初期産金地は前述の8世紀中葉になりませんが、ではこの産金技術がどのような形で伝わり、国内で産金活動が始まったかは、中沢新一氏の『大阪アースダイバー』(第4部コリア世界の古層と中層)において明解に紐解いています。

それによると、

- ① 5~7世紀朝鮮半島南端部に「加那」連合という国家の体をなしていない群小国家があった。
- ② 加那は仁那とも呼ばれ西日本と一つながり共通世界をもち言葉も方言程度の違い、宗教もほぼ同じ、互いに小舟で行き交い婚姻関係もあり親戚も広がっていた。
- ③ やがて加那連合は弱体化し日本への移住が始まった。各地の豪族は彼らのもつ文化・技術力を喜んで迎えた。この大勢力は「秦」氏グループと呼ばれ、採鉱や冶金、養蚕や機織りなどの技術を持ち、日本列島開発で関わらないところはなかった。
- ④ 特に7世紀になって加那は新羅にのみ込まれ、姿を消す200年間に(10万~20万人)が日本列島へ移住、彼らは通りの良い百済人と称した。
- ⑤ 彼らは農民、技術者、寺社建築の知識をもった高級技術者であり、玉造、たたら製鉄と鉄の道具作りに巧な工人、芸人、陶器・瓦の陶人、正に「百姓」の名に相応しい職人集団だった。と述べています。

さて「蝦夷征伐侵寇図(図左)」(昭和60年・佐藤正助著・志津川物語より)に見るように、8世紀中葉当時の東日本では、蝦夷征伐侵寇の最前線が700年頃、740年頃、770年頃、800年頃と北上していきますが、右図には8世紀中葉の文献に見られる産金地からの金献上の記録がそれと重なります。筆者は、日本における砂金採掘時代の曙は渡来した百済人による開発だったと考えています。



8世紀中葉の蝦夷征伐侵寇図(左図)と、(右図)は、その産金地・産金年代が重なる事がわかる。

多数のテレビ番組やラジオ、雑誌に当博物館が取り上げられました

おかげさまで博物館も各マスコミにお取り上げいただいています。2015年度前半、大きなものでは『俳句王国 (NHK)』、『LET'S天才てれびくん (NHK)』や『たけしのニッポンノミカタ (テレビ東京)』、また秋口には『開運!なんでも鑑定団 (テレビ東京)』で資料提供にご協力させていただきました。

2016年に入って大きな番組は『ザ!鉄腕!DASH!! (日本テレビ)』。お馴染み人気アイドルグループTOKIOメンバーによる長寿人気番組で、放送後、多くのお客様から反響いただきました。

番組内容は、生活に欠かせない何かがあった日を調べる『DASHなんの日調査隊!』というコーナーで、放送日の1月24日が「ゴールドラッシュの日」ということにちなんで、“100kgの金鉱石から昔ながらの方法で金を取り出す”ことにTOKIOの城島茂リーダーと松岡昌弘さんが挑戦する内容でした。その指導者は小松学芸員。そして100kgの金鉱石から金を取り出す実験は大成功、その経緯は放送されたとおりです。

しかしながら、実は、舞台裏では内容が極めて難題にもかかわらず、ロケ本番までは約一か月間しかないという中でスタート。博物館では連日準備と実験の同時進行で、納得する条件や環境を整えるのに本当に大変な試行錯誤を繰り返したのです。番組スタッフとともに寝る間も惜

しんでの準備を進め、その心境はまるで“戦友”のようでした。そして大変だった分、実験にしても何にしてもいろいろと大きな成果を得たものとなり、博物館の名をまた知っていただく機会となりました。余談ですが、当日ロケの主演だった城島リーダーと松岡さんは、テレビで見るとおりで、気さくで飾り気のないとても感じのいい方たちでした。

その後、3月7日に放送された『せいこうの歴史再考 (BS12)』という、いとうせいこうさんが司会を務める番組。せいこうさんが、山梨の戦国武将・武田信玄に縁のある場所とその実績を辿りながら、地域の経済発展にどう貢献していったのかを紐解く歴史経済番組です。そこに金山博物館登場となれば、話の主演はもちろん甲州金。小松学芸員は、せいこうさんの軽妙なトークと博識の深さに感心しながら、この日の案内役を務めました。

「博物館、テレビに良く出てますね」というお声もたくさんいただきますが、新年度も周囲からそう声がけいただけるよう、また各マスコミから注目され頼られるような情報発信と活動をして参りたいと思います。

なお、テレビ放送やメディア出演関係の情報は、博物館ホームページやもーん父さんFacebookでもお知らせしていますので、こちらも是非チェックしてください。

平成27年度の有料入館者数は、前年比大幅増加の約18,000人

未曾有の自然災害や、不景気の中の価格高騰による出控え・買い控え、増税要素など、毎年のように観光地が苦境に立たされる状況や傾向が、手を変え品を変え襲い掛かってくる感が拭えませんが、各観光施設がそれぞれに頑張っています。当館も同様の状況下、昨年実数を上回る事を目標にした結果、入館者落ち込みに歯止めをかけ目標値を大きく上回ることが出来ました。少子化が叫ばれる中、生徒数そのものは減少傾向にあるものの、学校としての利用数は安定したご利用をいただいています。

博物館が、テレビをはじめとする多数のメディア出演をしている影響も大きな要因の一つであることも間違いありませんが、一方、メディアに取り上げていただける施設であり続ける努力と、年代層問わずお客様にとって「居心地の良い気持ちの休まる博物館」であり続ける努力を惜しまない地道な積み重ねが、この結果を導いたものと感じています。スタッフ一同、今後も向上心をもって努めて参りますので、引き続きの皆様からのご支援を賜りたくお願い申し上げます。平成27年度の入館状況と、県町内外の教育機関による利用実績は次のとおりです。

錫コースター作り体験教室とシルバークレイアート教室

12月に引き続き2回目となった県立峡南高等学校との共催事業「錫コースター作り体験教室」。2月14日の回は、研究フォーラムの翌日だったこともあり、フォーラムに参加した応援団の皆さんの飛び入り参加もあり、大変賑やかな体験会となりました。指導役の生徒たちも楽しそうに、もちろん参加者ももっと楽しそうでした。引率の五十嵐先生も「錫」という素材をもっと活かしてレベルアップした体験にしたいと意気込みを語ってくれていました。こうした地元の学校との連携事業を継続的に行っていききたいと思います。

ちなみにこの様子は甲府CATVの『街かどトピックス』のコーナーで一週間程放送されました。

また、3月5日には、こちらも2回目「シルバークレイアート教室」が開催されました。講師は前回同様、町内在住の山内真咲先生。参加者はほぼ男性でしたが、思いのほかの上出来に作った本人もびっくり、中には砂金採りの道具「汰り板」のペンダントトップを作った人もいましたが、それぞれ素敵な作品に仕上がりました。こうした体験、次年度も盛り込んで事業展開していく計画ですので、楽しみにしててください。



錫コースター作り体験教室



シルバークレイアート教室

平成27年度 博物館世代別利用状況

年月	開館日数	区分	有料入館者				年月	開館日数	区分	有料入館者			
			観覧	体験	共通	合計				観覧	体験	共通	合計
27.4	25	大人	393	190	179	762	10	21	大人	380	313	385	1,078
		中学生	2	70	49	121			中学生	7	20	3	30
		子供	6	64	51	121			子供	5	178	33	216
		計	391	324	279	994			計	392	511	421	1,324
5	27	大人	478	428	465	1,371	11	26	大人	523	380	480	1,383
		中学生	9	68	269	346			中学生	0	15	116	131
		子供	93	210	139	442			子供	11	114	29	154
		計	580	706	873	2,159			計	534	609	625	1,668
6	26	大人	363	346	300	1,009	12	23	大人	237	131	127	495
		中学生	2	8	4	14			中学生	8	6	6	20
		子供	2	110	63	175			子供	4	28	47	79
		計	367	464	367	1,198			計	249	165	180	694
7	26	大人	206	361	463	1,030	28.1	26	大人	293	216	272	781
		中学生	4	59	53	116			中学生	1	30	11	42
		子供	112	153	133	398			子供	7	70	66	143
		計	322	573	649	1,544			計	301	316	349	966
8	31	大人	635	845	944	2,424	2	25	大人	313	194	347	854
		中学生	16	99	111	226			中学生	1	6	14	21
		子供	25	532	415	972			子供	4	42	34	80
		計	676	1,476	1,470	3,622			計	318	242	395	955
9	25	大人	484	396	554	1,434	3	17	大人	202	167	176	545
		中学生	2	20	24	46			中学生	8	13	11	32
		子供	5	138	125	268			子供	12	56	48	116
		計	491	554	703	1,748			計	222	236	235	693
		合計		298				合計		298			
		大人		4,497				大人		4,497		13,156	
		中学生		60				中学生		60		1,145	
		子供		286				子供		286		3,164	
		計		4,843				計		4,843		17,465	

大学：4校 高校：12校
 中学：24校 小学：8校
 (平成28年3月データ)
 増穂中、北杜市いずみ小、東京農大グリーン
 アカデミー生、玉幡中2年、身延山高、笛川中
 1年、竜王北中、下部小2年、田富中2年、楯
 形中、久那土小3・4年、玉穂中、韮崎東中2
 年、押原中2年、若草中、松里中、身延山大学、
 白根巨摩中2年、敷島中2年、市川高(留学生
 等含)、東京農大大学課外授業、名古屋国際中・
 高4年、澁中高、開成学園中高、大妻女子中高、
 慶應義塾付属中、桐朋学園中高、山梨学院大付
 属中高、駿台甲府中高、新座市立第四中、峡南高、
 麻布学園、静岡県・藤ヶ丘中、東京大学分析科
 学研究室、山梨市立八幡小3・4年、石和南小
 4年、駿台甲府中1年県内めぐり、山城小4年、
 文教大付属中、身延山大学、西島小3年、身延
 高1年、竜王中、文理開成高、下山小、叡明高

平成27年度金山博物館研究集会「第4回 金山遺跡・砂金史研究フォーラム」

2月13日（土）、今回で4回目となった「博物館応援団Au会」の皆さんが企画開催する「金山遺跡・砂金史研究フォーラム」。“誰もが気軽に参加できる発表会”をコンセプトとした一般参加型の研究発表会です。日々積み重ねてきた金山研究の進展発表と、金山博物館を拠点にフィールドワークを展開している皆さんの経験や体験、疑問点などをテーマに、今年も興味深い内容が盛りだくさん、加えて初の試みとしてポスターセッションもありました。（谷口館長記事参照）。ポスターセッションは、エントランス壁面と映像シアター壁面に展示にしましたが、発表者は谷

口館長と、「チーム博物館」、小松学芸員の展示した3点です。このポスターを前例に、来年度は是非自分も出したい！そんな気持ちになった方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

さて、聴講者も遠くは北海道から島根まで、全国各地から約80名が集まり、会場となった映像シアターは満席状態。12時30分からの受付に早い時間から多くの方が集まってくれました。各発表者15分の発表時間に5分間の質疑応答時間が設けられましたが、今年はこの質疑応答も非常に活発で大盛会のうちに幕を下ろしました。

【当日のスケジュール】

開会式 午後1時～ 研究発表会開始 午後1時15分～

13時15分～①「書籍から探る奥三河の埋もれた産金地」（愛知：中村軒一）

13時40分～②「ライバルに差を付ける！寄せ場発見ワンポイントアドバイス」（群馬：春山崇）

14時05分～③「フラットバンとBateaと揺り板の自作に関する試み」（兵庫：野村敏郎）

14時30分～④「岐阜県中津川地域の砂金産地を巡る」（神奈川：石田政明、広瀬義朗）

————— 15分休憩（14時55分～ 15時10分） —————

15時10分～⑤「甲斐斑山金山に関して」（山梨：八巻與志夫）

15時35分～⑥特別発表「3次元レーザスキャナを用いた湯之奥金山坑道跡や鉱山白の定量解析」

（島根：松江工業高等専門学校 久間英樹）

16時00分～⑦「信州の放浪記」（長野：宮坂隆志）

16時25分 ————— 全体質疑応答（25分） —————

16時55分 閉会式・総評・フォーラム終了

応援団の方々も気合入れて資料作成してくれた力作、予備資料もすべて頒布終了となりました。

さて、発表のスタートを飾ったのは、文献を中心に愛知の金山について考察をまとめた中村軒一さん。そしてタイトルで多くの人の心を惹きつけた春山崇さん、様々な砂金採集道具作りにこだわった灘高教諭の野村敏郎先生、砂金採取の難しい地でもある中津川の砂金について共同研究発表した広瀬義朗さんと石田政明さん、須玉方面の斑山金山について踏査報告した八巻与志夫さん、坑道探査ロボットでお馴染みの松江高専の久間英樹先生、そして最後に長野の金山と諏訪大社を絡めて発表した宮坂隆志さん。各発表すべて斬新な切り口で各自のテーマを語ってくださいました。

そんな中、フォーラム最高潮となったのは、久間先生の手作りの湯之奥型石臼チョコレートが配られた時かもしれません。久間先生は、石臼のデータ計測をテーマに発表してくださいましたが、その内容とバレンタインデーの前日ということに因んで参加者全員に、湯之奥型挽臼チョコを配布するというサプライズを繰り出したので

す。加えて小松学芸員は「湯之奥型石臼クッキー」を配布。二人の“湯之奥型挽臼スイーツ作戦”は、フォーラム終盤に頭が疲れてきたところだったこともあり大成功。久間先生の公演は特に皆の心をがっつりつかみました。

とにかく、笑いと勉強が混在する、気楽でためになる発表会が、昨年よりもさらにパワーアップして好評を博し、閉幕することができました。アンケートでの感想を取りまとめてみると、楽しかったという方がほぼ100%。

発表してくださった方、そして聴講してくださった方、応援団の皆様、まずはありがとうございました。来年は自分が発表したい、という方もおられますが、是非よろしく願いいたします。発表ではなくポスターセッションを出したいという方、フォーラムはまた同じ季節に開催予定です。それまでじっくり構想を練っていただき、心が決まりましたらまずは応援団事務局（博物館内）までお申し出ください。皆で素晴らしい研究集会にしていきたいですね。



満席のフォーラム会場



ポスターセッション



石臼チョコ（上）と石臼クッキー（下）

久間英樹先生の発表では石臼チョコが登場。

ゴールデンウィーク期間中の開館時間について

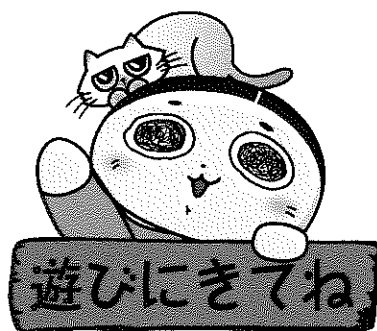
5月から夏時間となります。開館時間：午前9時～午後6時まで（受付は閉館30分前まで）

ゴールデンウィーク期間中を含む、平成28年4月28日（木）～5月10日（火）まで、休まず開館しております。連休中、帰省されたご家族や遊びに来たお友達を連れて、是非、金山博物館へおいでください。多くの皆様のご来館をお待ちしております。

4月							5月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
24	25	26	27 休館日	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7
							8	9	10	11 休館日	12	13	14

もーん父さん出演イベント情報

春の足音が聞こえ始めるころ、我らがもーん父さんにイベント出演のお声掛けが多数ありました。新東名沼津SAでの観光キャンペーン、また3月6日（土）には甲府の山梨県立青少年センターのセンター祭りにおいて、甲斐市のやはたいぬ君と共演したり、3月19日（土）にはクラフトフェスタ in KYONANにお呼ばれしたり、大忙しです。そんなもーん父さんの、これから予定されている出演情報のお知らせです。



厚生連カラダいきいきフェスタ2016

日時：3月27日（日）午前9時30分～午後3時／会場：山梨県厚生連健康管理センター（甲府市飯田1-1-26）

日本人女性に多い乳がん早期発見の大切さと、全ての女性が日常生活の中で意識し自分自身の問題として気づくことを目的とした『YAMANASHIピンクリボンフェスタ2016』イベントと同時に、同会場で開催されます。

第45回（平成28年度）信玄公祭り

日時：4月9日（土）午前11：00～午後5：00／会場：甲府駅北口よっちゃんばれ広場

信玄公の命日4月12日を中心に山梨県内の各地では、その遺徳を偲ぶさまざまな信玄公の祭りが行われます。

甲府市中心部を会場に行われる「信玄公祭り」、今年は、8日（金）～10日（日）の3日間に盛大に開催されます。土曜日の夕方からは出陣の“甲州軍団”は1000名を超え、川中島出陣の様子を再現します。

もーん父さんは、観光PRコーナー、特産品販売、県内ゆるきゃら大集合のイベントに登場します。

編集後記

3月上旬から下旬にかけて、リバーサイドパークの河川敷周辺は濃いピンク色に彩られました。ピンク色の答えは“カワツザクラ”。伊東市にお住いの神宮寺剛さんが、自身に縁のあるこの地域にご寄贈くださり、このリバーサイドに植樹されたもの。その後、下部の青年団の皆さんが植樹したカワツザクラも加わり、小さかったそれぞれの桜の苗木は、皆の目を楽しませてくれるまでに成長し今に至り、今年も綺麗に咲きました。

“桜”と言えば身延町のシンボルでもある身延山のしだれ桜。この『館だより』が皆さんのお手元に届くころには、しだれ桜も咲き、これもまた多くの皆さんの目を楽しませてくれることでしょう。

博物館も今年で19回目の春を迎えますが、今年も多くの皆さんに楽しんでもらい、そして思い出作りのお手伝いが出れば嬉しいです。

冬時間（4月まで）の開館時間：午前9時～午後5時迄（受付は午後4時30分迄）

休館日：毎週水曜日（12月28日から翌年1月1日までの5日間は年末年始休館期間です。）

博物館だより

第75号 平成28年3月28日

〒409-2947 山梨県南巨摩郡身延町上之平1787番地先

TEL 0556-36-0015 FAX 0556-36-0003

博物館HPアドレス http://www.town.minobu.lg.jp/local_minobu/kinzan/index.html

博物館Eメール yunoking@town.minobu.lg.jp facebook もーん父さん